

琵琶湖博物館協議会議第2回会議にかかる意見等について

| 項目 | 委員 | 意見・質問・提案等 | 回答・対応等 | 担当 | |
|-----------------------------|------|-----------|---|--|-------|
| 【議題1】令和元年度の博物館活動について | | | | | |
| 1 | 来館者数 | 山西 | <p>・やみくもに来館者数の追い求めるのではなく、快適に観覧できる環境を想定されているのは良い姿勢だと思います。来館者を類型化した上で(大人の個人利用者もそのひとつ)、来館者アンケートの回答をクロス集計して、きめ細かな来館者対策を検討するといった取り組みはいかがでしょうか。</p> | <p>・これまでもアンケート結果等を参考に来館者対策を講じているところはありますが、ご意見の趣旨を踏まえ、ターゲットや手法を吟味して、様々な年代に向けたきめ細やかな取組等を行うことにより、来館者の増加を図っていきたいと考えます。</p> | 企画、広報 |
| 2 | 来館者数 | 山崎 | <p>・草津市、栗東市、甲賀市などの比較的近い学校の来館がそれほど多くないのは、貸し切りバスを使って利用することに対する様々な思いがあると考えられる。近隣の学校について、博物館への無料バスの運行などを試してみてもはどうでしょうか。</p> | <p>・貸し切りバス等については、コスト等面の課題もありますが、現在、いくつかの学校は、ホールの子事業との連携により、バスで来館いただいております。今後そういった取組なども進めながら、学校の来館を図ってまいります。</p> | 広報 |
| 3 | 来館者数 | 下澤 | <p>・リニューアル後の来館者数が増加していることについて何よりです。ただ、中学校単位での利用が少なくなっていることについて責任を感じています。今後、中学校関係のあらゆる機会を通して利用促進を伝えていきます</p> | — | |
| 4 | 来館者数 | 稲垣 | <p>・一部リニューアル中にもかかわらず、来館者が増加傾向であるのは、すでにリニューアル効果が出ていると思われ、7月のグランドオープン後はさらに期待でき、楽しみです。</p> | — | |
| 5 | 来館者数 | 高尾 | <p>4-6月は生き物や植物が活性する時期なので、この時期ならではのワークショップや フィールドワーク等で来館者の増加を見込める働きかけができると良いのかなと感じます。 また、大人の個人利用者を開拓ということですが、「大人の修学旅行」と銘打ってシニアクラブや母親の会、父親の会等への広報もあると良いのではないかと感じます。 集団利用→個人利用の方が足が運びやすいのかなと感じました。遊び心と呼び覚ました大人を増やせると、子どもたちへも良い影響があるように感じます。そういう大人がたくさん増えることを期待します。</p> | <p>・博物館等の活動を魅力発信の一つとして取り上げていくことは、令和2年度の取組として推進させていただきたいと考えています。 ・また、シニアクラブや母親の会、父親の会といった団体に対する働きかけも参考にさせていただきます。</p> | 広報 |
| 6 | 来館者数 | 山本 | <p>○来館者数と利用者数は別ですか?・・・「10~1月来館者数438,857人」と「グラフ・利用者数2019実績10~1月」の対比差</p> | <p>・同じ意味です。</p> | 広報 |

| 項目 | 委員 | 意見・質問・提案等 | 回答・対応等 | 担当 | |
|----|------|-----------|--|---|----|
| 7 | 来館者数 | 中田 | <p>リニューアルによる来館者数増加は大変うれしく思います。資料説明1のトピックス4で言われているように「ちょっとした日常の疑問に答えるというところから、本格的な研究まで、さまざまなレベルの【知りたい・やりたい】にこたえられる機関でありたい」とあります、このようなことは大変すばらしいと思いますが、その大前提として、まずは博物館に足を運んでいただくことが必要です。中田は所属する団体の見学研修を交流係に問い合わせたところ、個々には実施していないとお断りされました。それでも何とか10数人で来館したところ初めてきた方が多く、館の充実ぶりに驚いていました。次回は個人でもっとゆっくり来たいという方が多くいました。</p> <p>このように個人では来られない方もグループ・団体行動で来館し、来ればもう一度、行ってみようと思われるようです。個々のグループ・団体の研修を受け入れるのは人手のこともあり、難しいと思いますが、合同で日程を決めて受け入れるというのはどうでしょうか？内容も初歩からそれぞれ目的別・テーマ別でグループ分けにするなど如何でしょうか。県内には様々なグループ・団体があります。博物館とは関係ないと思っている団体でも、楽しい・視野を広げる助けになる・景色を楽しむなどでも良い場所だと宣伝してみてもいいかでしょう。</p> <p>堅苦しくなく、楽しめる博物館 ということをもっと宣伝したいと思います。</p> | <p>・来館団体からの講義および実習の依頼については、展示見学を合わせて行うこと、テーマが明確であること、学芸員の都合がつかうことという条件を満たせば、あまり多人数でなくても受けております。また、館外での観察会や講演の講師についても、主催者が経費を負担すること、テーマが明確であること、学芸員の都合がつかうことなどを条件として受けております。館の内外を合わせて年間約100件近くの依頼を受けています。</p> <p>また、館主催のテーマ別の観察会、講座、講演会、ワークショップも行っています。今後、初歩的なものから専門的なものまで様々な方々の学びをサポートできるような事業の充実を図っていきたくと思っています。</p> | 交流 |
| 8 | 来館者数 | 田淵 | <ul style="list-style-type: none"> ・快適に見るのが難しいレベルとありますが、何か対策は考えているのか。 ・伸びしろのある時期の来館者の増加に力を入れるとは、どのように？ | <ul style="list-style-type: none"> ・夏休み等は来館者が多く、駐車場等にも影響が生じるため、集客を見込めるイベントの時期をずらすようにしています。 ・春や秋の行楽シーズンに余裕があるため、より多くの来館者にきていただけるよう他施設との連携により、烏丸半島の自然を楽しむことや、樹冠トレイルからの景色をPRし、効果的な宣伝を行っていきたく。 | 広報 |
| 9 | 来館者数 | 田淵 | <p>増加の要因の分析も重要と思いますので、簡単な方法でアンケートを取ってはどうか。例えば、ボードにシールを貼るなど。(よくTVで街頭アンケートしている方法)</p> | <p>・年2回の来館者アンケートにおいて、リニューアルへの感想等も聞くとともに、簡易な調査の導入についても、参考とさせていただきます。</p> | 広報 |
| 10 | 企画展示 | 山西 | <p>・ピワマスの企画展は素晴らしい内容でした。しかし4万2千人余りという入場者数は会期中の来館者総数の5分の1程度でしょうか。もったいない気がします。できれば企画展も常設展料金だけで気軽に観覧できるよう、リニューアル後料金改定の機会に英断をお願いします。</p> | <p>・企画展示につきましては、研究する博物館の成果発表の場として博物館の目玉事業であります。経費もかかっているため、観覧料を無料とすることはむづかしいかと思っています。参考にさせていただきます。</p> | 展示 |

| 項目 | 委員 | 意見・質問・提案等 | 回答・対応等 | 担当 | |
|----|---------|-----------|---|---|----|
| 11 | ギャラリー展示 | 山西 | <p>「トンボ100大作戦」は博物館における企業連携の取り組みという面からみても先進的な事例だと思います。さまざまな調整やご苦労もあったことかと思しますので、詳しいお話を協議会で聞かせていただければありがたいです。</p> | <p>・「トンボ100大作戦」のギャラリー展示は、県内の環境学習を支援する環境学習センターが、博物館に移転したことによる成果の一つだと考えています。情報発信を希望されるBBN(生物多様性びわ湖ネットワーク)と、展示による情報発信を得意とする当館とが上手く連携できた事例だと思います。</p> <p>また、BBNに参加されている企業とは、個別にも希少種保全や環境学習推進に協働させていただいており、今後さらに環境保全分野での活動について、連携できればと考えています。</p> | 松田 |
| 12 | ギャラリー展示 | 稲垣 | <p>出展者として、来館者の増加により会場にも昨年より多くの方にお越し頂きました。これまでクイズはありましたが、景品をつけてのクイズラリーは初めてで、これが予想以上に良い結果につながりました。案内通り、クイズラリーにより、会場での滞在時間が延び、ヒントが隠れている展示物をじっくり見て頂くことができました。これは琵琶湖博物館様の展示にも展開できるのではないのでしょうか。</p> | <p>・企業のみな様と協働で作業させていただき、新たな発見等もありました。そうしたことを参考としながら、多くの方に博物館を楽しみながら、活用していただけるよう、努力してまいりたいと考えています。</p> | 松田 |
| 13 | 研究 | 稲垣 | <p>ヨシ原の花粉(この資料により、ヨシに花粉があることを初めて知りました。)</p> | — | |
| 14 | 研究 | 高尾 | <p>・琵琶湖地域の水田生物研究会について とてもおもしろそうな内容ですが、一般の方はあまりご存知ではないようにも思います。良い機会ですので、大人向け、子ども向け等、時間を分けてアレンジしてみるのもよいのかなと感じました。前回、山本委員と中坊委員からお話がありましたが、ゆりかご水田について、田んぼと生き物の関係を学ぶきっかけになるのかと思います。一般の方への広報についてもご検討いただけましたら幸いです。</p> | <p>・本研究会はもともと、大塚総括学芸員が外部資金による研究プロジェクトのアウトリーチとして始めたものであり、プロジェクトが終わった後も、館内外からの多くの参加者・発表者に支えられて10年間も続けることができました。本研究会では小学生から職業研究者まで様々な人たちが研究発表をしています。広報については予算の制約もあり、量的な意味での増強は難しいのですが、興味を持っている方々により確実に届く方法を探っていきたいと思っています。広報の対象や方法についてご指導いただければ幸いです。</p> <p>・琵琶湖博物館では、田んぼと生き物との関係についてのより入門的な、体験に根差した学びの場として、博物館内での田んぼ体験や高島市朽木での田んぼ観察会などを行っております。</p> <p>・また依頼に応じて、地域での田んぼの生きもの観察会に講師を派遣しております。</p> | 研究 |

| 項目 | 委員 | 意見・質問・提案等 | 回答・対応等 | 担当 |
|-------|----|--|---|----|
| 15 広報 | 池田 | <ul style="list-style-type: none"> ・大人にも子どもにも親しまれる施設にと、展示やイベントにさまざまな工夫を凝らしていることに感心しました。また、大学や企業などと連携し、研究機関としての存在感も大きいことがわかりました。 ・それだけに、琵琶湖をテーマにしたほかに例のない施設としての発信をもっと強く打ち出してもいいように感じました。 ・半年前に大津に赴任しましたが、県外の人にはまだまだ「おもしろくてためになる」という魅力が十分に伝わっていないように感じます。 | <ul style="list-style-type: none"> ・展示を見るだけではない、ともに活動する博物館、おとなにこそ面白い博物館といった知られざる面を次々に発信し、露出につなげていけたらと考えています。 ・グランドオープンに際し、新しく生まれ変わった琵琶湖博物館を広く広報するとともに、研究する博物館・活動に参加できる博物館として、県内だけでなく県外に向けても、その魅力を伝えていきたいと考えています。 | 広報 |
| 16 広報 | 池田 | <ul style="list-style-type: none"> ・次のリニューアルの際は、情報を少しずつ小出しにするなどしてマスコミなどに何度も取り上げてもらえるよう工夫し、ユニークさを前面に出した広報活動の展開を期待します。(途中からの参加で、例えば「梁山泊」など、よく分からないことが多く、ぼんやりしたことしか書けず申し訳ありません) | <ul style="list-style-type: none"> ・グランドオープンの広報を効果的にできるよう工夫して行っています。 | 広報 |
| 17 交流 | 高尾 | <p>親子で参加できるフィールドワークや学習会を増やしていただけるとありがたいです。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・これまでも観察会・見学会、体験教室、わくわく探検隊などにおいて親子で参加できるプログラムを実施してきていますが(2019年度は約9割が親子で参加できるプログラム)、今後も事業を計画してまいりたいと考えています。 | 交流 |
| 18 資料 | 中坊 | <p>2-5:標本などの資料ですが、これの重要性を認識してもらいイベントが必要なわけではありませんか。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・琵琶湖博物館では、これまで展示事業を中心に、資料の重要性を広く知ってもらうべく取り組んできました。 ・第3期リニューアルでは、A展示室およびB展示室において、これまで収集保管してきた所蔵資料をたくさん展示する計画です。 ・C展示室や「おとなのディスカバリー」などでも、標本を含めた多くの資料を展示・紹介し、標本を間近で観察し、その作り方などを映像で示すなどしています。 ・また、企画展、ギャラリー展、水族トピック展、蔵出しの資料紹介などにおいても、博物館が収蔵している重要な価値を持つ資料について、折りに触れてパネル等で解説紹介しています。 ・現在はリニューアル中でもあり、展示事業が中心になっていますが、今後、展示以外の交流行事などで、資料の価値を知ってもらう機会、たとえば「標本をつくる」「標本を調べる」などを中心に検討していきたいと考えています。 | 資料 |

| 項目 | 委員 | 意見・質問・提案等 | 回答・対応等 | 担当 |
|----|------------|--|---|----|
| 19 | 地域連携 稲垣 | <p>企業内ビオトープ</p> <p>・第2回、3回と参加させて頂きました企業それぞれ規模も環境も違うビオトープを活用した環境プログラムがあり非常に参考になりました。また琵琶湖博物館様を通じて、環境活動指導者の存在を知り、つながることもできました。今後企業を通じて、従業員や一般の方々に環境学習を行う際の非常に心強いつながりができました。</p> <p>・第4回は実施企業として参加。残念ながらコロナウイルスの影響で延期となりましたが、企画段階では自社のビオトープでできる学習プログラムを発見する機会となりました。</p> <p>・琵琶湖博物館様が開催する交流会やシンポジウムでの出会いは、新たな繋がりや知識を得る貴重な機会となり、これが今後の環境保全につながっていくと考えます。</p> | <p>環境学習センターの役割の一つに、環境学習実施者間の繋がりの構築があります。環境学習指導者の方と繋がっていただき、環境学習を実施していただけることは、環境学習センターとして大きな喜びです。</p> <p>今年度計画していた環境学習活動者交流会が延期になったことは誠に残念ですが、企画段階での打合せが学習プログラム開発の参考になったのであればなによりでした。実施時期はまだ未定ですが、交流会が楽しみです。</p> | 松田 |
| 20 | 地域連携 中坊 | 2-4:ビオトープの延期は残念でした。 | — | |
| 21 | 地域連携 高尾 | <p>ヤンマーミュージアムのビオトープ観察会</p> <p>我が家も参加したことがあります。とても人気で、県外からもこれを目的に親子参加がありました。夏には子どもたち・ヤンマーミュージアムのスタッフ・教員OBの先生方によるお泊り会がありました。</p> <p>川に入って生き物を探したことがないという子どもが以外に多く、このような機会を提供していくことも大人の役割ではないかと感じました。</p> <p>その際は、捕まえた生き物を食べるという体験もあり、ザリガニを素揚げにして食べました。</p> <p>そうした生の体験は子どもの心に強く残っています。</p> <p>企業とのコラボ、地域とのコラボ等、様々な活動を期待しています。</p> | <p>・有り難うございます。小さい頃にさまざまな生物や自然環境と関わり楽しむことは、大人になっても忘れることはなく、環境保全の意識に繋がると思います。環境学習センターでは、これからもさまざまな主体の方々と連携しながら、環境学習の推進につとめたいと考えています。</p> | 松田 |
| 22 | 展示 中坊 | <p>・(4) 他館との連携ですが、野洲の「人と魚の歴史学」を見てきましたが、閑散としており、来館者は私一人でした。もう少し広報活動が必要だったのではないのでしょうか。</p> | <p>・今回は野洲市歴史民俗博物館と連携して、琵琶湖博物館からも資料提供やチラシの配布を行うなど、お互いの館を通じて広報を行ったところ。共催の事業の広報についても、もっと多くの方に来ていただけるようにしていけたらとおもいます。</p> | |
| 23 | 展示 中坊 | バイカルアザラシ「マリ」は残念です。 | <p>・繁殖を目指している中で、妊娠にはいたりしましたが、そのために母体に負担がかかってしまい、残念なことになりました。死因については死亡時の解剖で急性腎不全と判断され、その後の細菌検査では特に主要因となるような細菌は検出されませんでした。今後、さらに詳しい組織片などのウイルス性病理解毒検査を行う予定です。</p> | 展示 |

| 項目 | 委員 | 意見・質問・提案等 | 回答・対応等 | 担当 |
|---------|----|--|--|----|
| 24 展示 | 田淵 | バイカルアザラシが亡くなったとのこと。その扱いをどうするのか教えてほしい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・死亡してしまった個体(胎児含む)については、貴重な研究資料であるとともに、博物館の資料として剥製や骨格標本などとして役立てていきたいと考えています。 ・今後、国内ではまだ3例しか繁殖に関する報告がないことから、ロシアとの共同研究を含め、生息域外での保全に向けた検討をはじめたいと考えています。 | 展示 |
| 24-2 展示 | 田淵 | バイカルアザラシが亡くなったことを子供たちにどう伝えたのか。身近な動物の死について、子供に伝える良い機会とらえ、そういった教育に使うべきでは。 | <ul style="list-style-type: none"> ・マリが亡くなった後、アザラシの水槽の前にパネルを設置し、来館者の方にお知らせさせていただいていたところでした。 ・博物館の生き物が亡くなった時には、来館者の方にもきちんとお知らせして、子供たちにも生きものの死がしっかりとわかるように伝えていくことも大切な教育の一つと考えます。今後の参考にさせていただきます。 | 展示 |
| 25 はしかけ | 山西 | 今回「はしかけ」の資料を用意していただきましたが、次回以降にぜひ時間をとっていただきたいと思います。グループ間の「はしかけ」がどうなっているか、知りたいところです。 | <ul style="list-style-type: none"> ・複数のはしかけグループを掛け持ちされている会員も多く、イベントによっては、グループで共同して参加されており、グループ間の連携が図られています。 | 交流 |
| 26 はしかけ | 中坊 | 「はしかけニュースレター」楽しく拝見しました。 | <ul style="list-style-type: none"> ・はしかけニュースレターは、はしかけグループの活動報告と予定を掲載し、一般に公開することによって、会員のみならず、一般の方にもはしかけ活動を広く知って頂くために、2か月に一度発行しています。 | 交流 |
| 27 はしかけ | 高尾 | ・はしかけグループについてこんなにもたくさんのグループがあることを知りました。とても面白そうですね。会員の大人と子供の内訳はいかがでしょう。 | <ul style="list-style-type: none"> ・本年度約400名のはしかけ会員のうち、子供(中学生以下)が約40名となっております。 | 交流 |
| 28 広報 | 鹿田 | リニューアル後の利用が、全期間でアップとのこと。数字だけが評価ではないが、良い状況だと思う。各エリアのオープン時に(素人の私でさえ普段の生活の中で)かなり多くの報道や情報に接したので、ヘビーユーザー以外の方にも広く博物館の情報が伝わっていたことを実感した。(周りの方の話題にも多くのぼっていた)逆を言うと、2~3年に1回ペースで集中的にPRを投資すればすそ野の拡大には広がるのでは、とも感じた。(普段の宣伝費を抑えて、その時に集中して) | <ul style="list-style-type: none"> ・集中的にPRするタイミングと常時流している広報との住み分け等について、ご意見を参考にしながら、博物館のPRをすすめさせていただきます。 | 広報 |
| 29 広報 | 鹿田 | P6の参考資料1、トンボの展示風景の写真を見て、親子連れのいきいきとした表情が嬉しかった。クイズラリーもあったとのこと。子育て中の親としては、難しい展示よりも「行ってみたい」と思える風景だと思った。願わくば、この風景を初日に撮影し、SNS等で見ることができると、「それを見てでかけよう」という行動に移れたかもしれないので、少し残念に思った。(写真を見てのコメントです。間違っていたら申し訳ございません) | <ul style="list-style-type: none"> ・SNS等の広報については、メリット即時性や拡散性を活かせるように、適期に効果的な内容が発信できるように努力していきます。 | 広報 |

| 項目 | 委員 | 意見・質問・提案等 | 回答・対応等 | 担当 | |
|---------------------------------------|----|---|---|---|----|
| 30 | 菊地 | 4月～6月、10月～11月に伸びしろがある、とのこと。ちょうど夏休み、冬休みの前にあたりますので、お母さん・お父さん向けにミニ講座。たとえば「自然観察」「標本・史料整理」「昆虫採集の方法」「記録の取り方」などがあれば、面白いのではないかと思います(夏休み、冬休みのこともたちの自由研究のレベルアップにもつながると思います) | ・長期の休みに、またファミリーで来館してもらえることを意識しながら、大人向けのイベントの計画を検討します。 | 広報 | |
| 【議題2】 新琵琶湖博物館創造基本計画行動計画 令和2年度取組結果について | | | | | |
| 31 | 学校 | 下澤 | ・教員用ガイドツール及び学校プログラムの活用が進むことを期待しています。 | ・来年度のグランドオープンに向けて、教師用ガイドツール、学校体験プログラムのさらなる改善に取り組んでまいります。 | 交流 |
| 32 | 学校 | 下澤 | ・滋賀県中学校教育研究会理科部会 環境教育研究委員会による自然調査ゼミナールで琵琶湖博物館を利用させていただいていることに感謝しています。参加した生徒は大変貴重な体験をさせていただきました。今後ともよろしく願いいたします。 | ・参加生徒が、滋賀県ならではの本物にふれる体験、感動体験ができるよう来年度も尽力いたします。 | 交流 |
| 33 | 学校 | 中坊 | ・P1-2,下から5行目:ガイドブックどんなものでしょうか。 | ・はしかけ「森人」が活動の一環として作成した、樹冠トレイルやその周りの動物や植物、昆虫なども含めて紹介しているガイドブックです。ショップで、販売しています。 | 展示 |
| 34 | 展示 | 中坊 | ・P2-3:サインパネル、次回に拝見します。 | — | 展示 |
| 35 | 研究 | 中坊 | ・P2-4:他の研究機関と連携しての研究、具体的には？ | ・「在来魚介類のにぎわい復活に向けた研究」の一環として、琵琶湖環境科学研究センターや東京大学と連携し、河床の粗粒化に対する維持管理対策の一つとしての河床耕転の試験施工とモニタリング調査を、愛知川で行っています。 | 研究 |
| 36 | 広報 | 中坊 | ・P3-5:ナイトミュージアム、予想される具体的な効果？ | ・リニューアルの谷間の年であったため、博物館の資源を活かした魅力発信に取り組んだ。大人層など新たな来館者の開拓も図ったが、リピーターを中心に同じ取組としては、過去最大の集客(5,714人)することができた。 | 広報 |

| 項目 | 委員 | 意見・質問・提案等 | 回答・対応等 | 担当 | |
|----|----|-----------|---|--|----|
| 37 | 展示 | 中坊 | ・P4-6:ヒナモロコは展示されているのでしょうか？ | <ul style="list-style-type: none"> ・水族展示室にて現在展示しています。 ・現在展示しているのは遺伝分析の結果、純粋な<i>A. kikuchii</i>であったため、今後日本産の遺伝的要素の割合が高い交雑個体群(九州クリーンパークビオトープ産)を入手し、切り替える予定です。その際、遺伝的攪乱の実態を紹介する展示パネルの作成も検討しております。 ・来年度開催予定の企画展示におきましても、ヒナモロコの遺伝子攪乱の問題を取り上げたいと考えています。 | 展示 |
| 38 | | 山本 | ・達成度評価数値の算出方法は？ | ・今年度の事業目標に対しての達成度を100分率で表記している。 | 企画 |
| 39 | | 山本 | 3「利用者利便性・ユニバーサル・誰もが・・・」 多言語の種類は？また、視覚・聴覚障害児者への配慮は？ | ・パンフレットは、中国語と英語版があります。視覚に障害のある方については、音声ガイドを使って、案内を行っています。 | 広報 |
| 40 | 広報 | 山本 | 5.「広報・営業活動」「国内知名度の向上」「魅力的なイベント」 稲妻ロック西川さんの知名度から、例「一日館長デー」などでマスコミ啓発 | ・令和元年度には、西川さんには2度来館いただいており、今後の連携を深める中で、参考にさせていただきます | 広報 |
| 41 | 広報 | 山本 | 「旅行関係機関への」 琵琶湖の(生活・食・湖上交通・歴史)ツアー企画提案も。 | ・県内のホテルや施設と、魅力的な企画ができるように提案をしていきたいと考えています。 | 広報 |
| 42 | 広報 | 山本 | 「アクセス」 現状では公共交通利用は「バス」「湖上交通」とも困難な状況、やはり自動車中心にならざるを得ない中、観光バスの立ち寄り企画提案、 びわイチコースのサイクルステーション的スポット化(いずれも関係機関・団体との協同連携) | ・旅行社や県のびわイチ推進室との調整を図っているところであり、実現に向けて取り組んでまいります。 | 広報 |
| 43 | 交流 | 橋詰 | 2.交流空間・交流機能の再構築 今回の評価の対象は、何らかの団体に属している人、または概ねSNSを駆使できる人であり、そこに属さない地元滋賀県民の個々の皆さんについては如何でしたか？その方々は、滋賀県の地元の施設である琵琶湖博物館が支えてくれる大切な存在です。個人の評価は、難しいかと思いますが、どのような評価か教えてください。 | ・博物館自身の評価となっています。滋賀県民の評価は、大切な評価と考え、今後の参考にさせていただきます。 | 交流 |

| 項目 | 委員 | 意見・質問・提案等 | 回答・対応等 | 担当 |
|-------|----|---|--|----------|
| 44 交流 | 橋詰 | <p>3.多様な主体との連携</p> <p>琵琶湖博物館の学芸員さんは、開館前準備室だった頃から今も、変わらず積極的にフィールドへ赴き、地域に根ざした活動をされています。このような博物館はおそらく少ないかと思えます。みなさんのご努力に心より感謝申し上げます。</p> <p>このように学芸員さんが、フィールドに出て、地域の人と積極的に繋がることは、一定の成果も出ているし、学芸員さん自身のスキルアップにも繋がっていると、以前私が同じような質問をさせて頂いたとき、協議会でお答えをいただきました。</p> <p>地元の皆さんの暮らしに寄り添い、その言葉を深く理解し、地元のみなさんの立場を尊重しつつ、博物館的側の思いも伝わるよう両者を丁寧に繋ぐのは、大変難しい仕事です。なので私はフィールド・エドゥケーター？のような役割を担っていただける職員さんがいてくださると、さらに良いのではないかと思います。如何でしょうか？以前、この提案をさせて頂いた際、「そのような考えは無い」と、お答えいただきましたが、一人でも多くの方に関わっていただくことは時間も労力も必要だけれど、それが必ず広がりとなって、成果を生むと思えます。(実は…地元とうまくいかなかった事例も少なからず耳にしています。)学芸員さんの負担も少し軽減するのでは無いでしょうか？</p> <p>スーパー学芸員さんだけでは無く、地元で誇りと愛着を持つスーパー滋賀県民をも育てていただきたいです。なので、地元と博物館を繋ぐスペシャリストの存在を期待しています。</p> | <p>・琵琶湖博物館では、琵琶湖博物館の理念に共感し、ともに琵琶湖博物館を作っていこうという意志を持った方が自主的な活動を企画・運営することができる「はしかけ制度」を設けています。はしかけ活動は多様化して現在26グループあり、それぞれ楽しみながら活動しています。またそれぞれに学芸員が関わって県民の主体的な活動を応援しています。</p> <p>・この活動が琵琶湖博物館にとどまらず、地域まで広がっていき、様々なものとの関係を取り持つ「はしかけ」となることを望んでいます。</p> <p>・新中長期基本計画では、はしかけ活動が琵琶湖博物館と地域とを「つなぐ」役割をさらに強化していけるようにしていきたいと考えています。</p> | 交流 |
| 45 学校 | 鹿田 | <p>主に年間達成度の◎△を見て気になった項目の意見を書かせていただきます。</p> <p>・P2、P3にある「学校との連携」について</p> <p>校外学習・遠足などでの利用がもっと増えると良いと感じている。校外学習に割ける時間が学校には少ないとも聞いているが、「様々な知識好奇心の差異がある、全ての子ども」が博物館の世界に接することができる機会はとても大きいと思っている。これからは暗記型の学習ではなく「探求」が重視されていくといわれているので、ぜひ校外学習が広がるよう学校・教育現場への働きかけを続けてほしい。(教師へのツアー、パンフの配布など)</p> | <p>・学校側も数少ない校外学習の機会を大切に考えておられます。学習のねらいにあった博物館の活用やリニューアルした展示の活用について、教員研修などの機会を通じて先生方に働きかけていきたいと考えます。</p> <p>・学校から来館いただくために、県内小学校を訪問したり、パンフレットの配布等も行っています。またグランドオープンを迎え、教師対象の館内ツアー等も計画をし、学校にリニューアルした琵琶湖博物館を魅力を伝えることにより、より多くの先生方に琵琶湖博物館を知ってもらい、校外学習につなげていきたいと思う。</p> | 交流 広報 |

| 項目 | 委員 | 意見・質問・提案等 | 回答・対応等 | 担当 |
|-------|----|---|--|----|
| 46 広報 | 鹿田 | <p>・P3国内知名度の向上 多くの親子は、特別に博物館を意識して日々すごしているわけではない。学校からのチラシや、SNSで情報に接した時などに「行ってみようかな」となる。行くとなったらホームページをチェック。とてもきれいで見やすいサイトなので、各自の興味に合わせてページを閲覧されると思う。 SNSでは、今のママは情報の仕入れ先としてはインスタが一番多い。少し差がついてTwitter。フェイスブックやブログはなかなか見ないそう。LINEは登録さえしてもらえればダイレクトに情報が届けられる(公式アカウント)が商用利用が多そうだ(ユニクロやGSなど)。</p> | <p>・博物館の情報をHPやフェイスブック、インスタなどいろいろなSNSで発信していきたいと考えております。参考にさせていただきます。</p> | 交流 |
| 47 | 菊地 | <p>私自身もこれまでいくつかのビオトープの造成に関らせていただきましたが、維持管理は、一般的にどうされているのでしょうか。一口に「ビオトープ」といっても、様々なタイプのもがあるかと思いますが(滋賀では水辺が多い?)、担当が変わっていく中で「なぜそこにビオトープが生まれたのか」という根っこの部分が受け継がれず、維持管理の部分は外部業者に委託し、理念のみが崇高な言葉で語り継がれていく、という例を見てきています。社員の環境教育の一環として、ビオトープの維持管理に積極的にかかわってもらいながら、そのビオトープならではの教育プログラムを生み出していくような仕組みができれば面白いと思います。私自身、現状、企業の皆様がどのようなプログラムを進められているのか興味があります。</p> | <p>ご指摘のとおり、一口に「ビオトープ」といっても、様々なタイプのもがあると思います。そのため、そのビオトープに合う学習活動が実践できないかを考えています。例えば、環境学習センターでは、企業敷地内のビオトープを活用して、環境学習活動を実施していただく目的で、環境学習活動者交流会を開催しています。交流会では、企業敷地内のビオトープに各企業の環境関係業務担当者、環境学習指導者にお集まりいただき、学習プログラムを体験していただくとともに、学習活動の実施を目的とする方々と交流していただきます。そして自社に持ち帰り、自社内のビオトープではどのような学習プログラムが実施できるかについて考えていただいています。昨年度は、学習プログラムの開発に内容を特化した交流会を開催する予定をしておりましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため延期としています。また、希少種の保全を目的としたビオトープでは、対象とする希少魚の保全を図るとともに、地域の学校などと連携した希少生物の保全に関する学習活動なども実施しております。</p> <p>担当者が代わることによる継続性の課題につきましては、どのような組織にもあることだと考えますが、ビオトープでの学習活動や生物保全が社会的貢献として重要であることを多くの方が認識できるよう活動を発展させ、環境学習センターが継続して支援することで、より長く、そしてより発展させたいと考えています。</p> | |
| | | | | |

| 項目 | 委員 | 意見・質問・提案等 | 回答・対応等 | 担当 |
|------------------------|----|---|---|----|
| 【議題3】リニューアルについて | | | | |
| 51 | 山西 | 小学生が見学している写真がありました。この種の取り組みについても聞かせてください。 | ・生まれ変わる博物館を知っていただこうと、地元の小学生に、リニューアル工事現場と収蔵庫を見学いただきました。今後も機会があれば、このような取組を行っていきたいと考えています。 | 広報 |
| 52 | 山崎 | ・大変楽しみにしています。学校での活用も考えていきたいので、学習シートの活用について、もっと各学校に広報してもらえたらと思います。 | ・学習シートの活用方法・作成について、引き続き教員研修を取組んでまいります。 | 交流 |
| 53 | 山崎 | 見学に当たってグループ活動の中で、案内や説明などをさせていただけるとありがたいです。 | ・すべての学校への対応はむづかしいかと思いますが、例えば、フローティングスクールの事前学習で活用いただけるのであれば、博物館の有効活用について先生方とともに作り上げられるのではないかと考えています。 | 交流 |
| 54 | 中坊 | 完成後に拝見するのが楽しみです。説明をきかず写真だけを拝見して、コメントするのは難しいので、差し控えたいと思います。 | — | |
| 55 | 山本 | 完成時期ではコロナウイルス問題も終息してくれていればいいのですか・・・オープニングのPR・セレモニーを新聞・テレビで啓発。(地元関連の著名人に一役を期待) | ・参考にさせていただきます。 | 広報 |
| 56 | 鹿田 | 完成を楽しみにしております。また、博物館への訪問やサイトへのアクセスにつながるよう個人的にも情報発信に努めたいと思っております。 | ・ありがとうございます。博物館としても、情報発信に努めてまいります。 | |